

春採湖レポート2015

春採湖調査会

目 次

1 水質部門

- A 春採湖の水質 角田 富男 1 ページ

2 動物部門

- A 魚類 針生 勤 6 ページ

- B ウチダザリガニ 蛭田 眞一 10 ページ

- C 春採湖畔探鳥会 釧路市立博物館 20 ページ

3 植物部門

- A 春採湖畔草花ウォッチング 釧路市立博物館 22 ページ

- B 水生植物 神田 房行 28 ページ

- 春採湖ダイジェスト 32 ページ

1 水質部門

A 春採湖の水質（元北海道立釧路水産試験場 角田 富男）

（1）表層水の水質

春採湖の水質は、環境基準点の St. 1 と St. 2（付図参照）の 2 地点の表層水（観測は湖面から -0.5m 層）を毎年 4 月から 11 月まで毎月 1 回（計 8 回）調査し、その結果を 2 地点の平均値で表しています。平成 27 年度の結果について、この 2 基準点における主な調査項目の年間の平均値を表 1 に（参考までに 26 年の測定値も付記）、2 基準点における年間の水質項目の月別の変動状況を図 1 に示しました。

表 1 のとおり、水質汚濁の指標とされる COD（化学的酸素要求量）の 27 年の平均値は 8.5mg/ℓ、COD の 75% 値（表 1 の※印参照）は 9.0mg/ℓ で、26 年と比較してそれぞれ 1.6mg/ℓ、1.7mg/ℓ も上昇（水質的には低下）しました。そして前年までと同様に 27 年も COD の 75% 値は基準値である「5 mg/ℓ 以下」には達しませんでした。ただし 26 年は暫定基準値（環境保全計画目標値）の 7mg/ℓ に近づきましたが、27 年はそれを 2mg/ℓ も超えました。COD の月別の変動は図 1 にみるとおり、St. 1 では 5.6~10mg/ℓ、St. 2 では 5.4~12mg/ℓ の範囲で、全般的には 4 月から 10 月に向かって漸増する傾向を示しました。また計 8 回の観測のなかで、暫定基準値の 7mg/ℓ を下回ったのは St. 1、St. 2 とも 4 月の 1 回のみでした。これまでの長年の調査結果から、春採湖の COD は主に光合成活動（炭酸同化作用）による植物プランクトンの増殖に起因しています。例年春の融氷・融雪以後から水温の上昇する 6 月頃に最も光合成活動が旺盛になり、植物プランクトンが大増殖して COD も高まります。その後夏季には光合成による栄養塩類の消費などで COD も一時的に低下し、晴天が続く秋季に再び高くなる傾向を示すことが知られています。しかしながら 27 年は上述のように例年の傾向とは異なりました。この傾向は 26 年も似ていましたが、27 年はより顕著に現れました。そのなかで 7 月は平均気温が高く、降水量が少なく日照時間も多かった影響で COD 値は高くなり、さらに 10 月には台風の襲来後に好天が続いて COD 値が高くなりました。この 10 月調査時は pH や SS（懸濁物量）、クロロフィル a（植物プランクトンの主要素）も年間の最高値になりました。

他の主要項目では pH が調査回数の中で St. 1 で 5 回、St. 2 で 3 回環境基準値（6.5~8.5）を超えました。SS（懸濁物）は平均値が 18 mg/ℓ で基準値の 15 mg/ℓ を超えましたが、そのなかで湖南部域の St. 1 では平均値が 11 mg/ℓ で基準値を下回り、基準値を超えた観測回数も 1 回のみでした。これに対し湖奥の St. 2 は平均値が 25 mg/ℓ と高く、観測回数でも 6 回基準値を超えました。DO（溶存酸素）、T-N（全窒素）、T-P（全リン）の平均値はいずれも環境基準値内にありました。ただしそれらのなかで DO と T-P は全観測時とも基準値を達成しましたが、T-N は St. 1 で 1 回基準値を超えました。なお環境基準の項目には入っていませんが塩分（塩化物イオン）の 2 地点の平均値は 502 mg/ℓ で、26 年（209 mg/ℓ）より大幅に増加しました。春採湖の表層の塩分は、例年は融雪・融氷期の春先に低下し、その後に上昇しますが降雨期の夏に再び低下して、好天の続く晩秋期に再上昇する傾向を示します。しかし 27 年で特徴的だったのは塩分が 8 月まで漸増を続け、9 月にさらに上昇して 500 mg/ℓ に達し、10 月には 900~1,000 mg/ℓ へと急増しました。これは 9 月は台風 17 号、10 月は 23 号の影響に因るもので、特に 10 月は上旬に最大瞬間風速が 30m/s を超えた日が計 3 日もあって著しい荒天が続きました。そのため湖内に激しい擾乱作用が起きて、湖底付近の高塩分水が表層にまで拡散上昇したために、表層でも極めて高塩分になったものと推察されます。この 10 月の擾乱作用では底層水に多量に溶存している栄養塩類（T-N や T-P など）が表層にも達しました。また 9、10 月の台風時には高潮に因る外海水の逆流も多量に観測されており、この流入影響も大きかったものと考えられます。

平成 3 年以降の St. 1 と St. 2 における表層水の年平均の COD の経年変動を図 2 に示しました。湖口の春採川に潮止め施設を平成 5 年に設置したことに依り、それまでの年変動の大きい高

COD値が減少に転じ、平成7年以降はSt. 2でも10 mg/ℓを超えることはなくなりました(14年のSt. 2で10 mg/ℓ)。その後15年にSt. 1で6.6 mg/ℓ、St. 2でも7.6 mg/ℓまで低下し、過去最低を記録しました。16年以降は20年まで若干ながら漸高の傾向が続きましたが、21年以降は再び低下の傾向を示し、24年には過去最低の15年とほぼ同値まで低下しました。しかし27年は急上昇して20年に近い状況を呈しましたが、これは塩分の変動でみたっており、9～10月の台風に因りCOD値の著しく高い底層水の影響が表層にも及んだものと考えられます。

図3に平成3年以降のSt. 1およびSt. 2における表層水の塩分濃度の経年変動を示しました。潮止め施設の設置前の平成4年までは1,000 mg/ℓ以上の高塩分で、しかも湖南部域のSt. 1と湖奥のSt. 2における差異は極く小さく、表層は湖内全域ともほぼ同濃度でした。潮止め施設の完成した平成5年にはSt. 1、St. 2とも500 mg/ℓ程度まで急減したが、その後は13年まで変動を繰り返しながらも若干ながら増加傾向を示しました。ただしSt. 1と2の間に差異が認められ、湖奥のSt. 2で常に低い状況を呈し、逆流海水の影響が湖奥では弱まったことが推察されます。14年以降は概ね漸減傾向(降水量の多かった15年は急減)を示し、22年に過去最低(St. 1で191 mg/ℓ、St. 2で164 mg/ℓ)の塩分となりました。ただし27年は著しく増加し、CODと同様に20年と同程度を示しました。なお23年に新たな恒久的潮止め堰が完成し、その適切な管理(潮位に対する堰高の調整)によって海水の逆流が抑制され、St. 1とSt. 2における塩分の差異が極く小さくなって来ています。

(2) 下層水の水質

春採湖の中～底層には満潮時や高潮時に流入した海水が滞留し、著しい高塩水層が形成されています。その塩分を含んだ中～底層水は表層の淡水に比べて密度(比重)が大きいため、淡水層とはあまり混合しません。旧潮止め施設の設置以前は水深2 m付近までの表層の塩分濃度が1,000 mg/ℓ弱でしたが、それ以深になると急増し、水深5 m前後の底層に至ると10,000 mg/ℓほどの高濃度で、外海水の塩分濃度(約18,000 mg/ℓ余)の60%程度の濃さを保っていました。また高塩水が滞留した底層には湖底の有機物の分解などから発生した硫化水素などが多量に溶存して無酸素状態となり、魚類などは生息出来ません。この底層水ではCODも400 mg/ℓ前後と極めて高く、T-NやT-Pもそれぞれ20～50 mg/ℓ、2～6 mg/ℓと著しい高濃度を示していました。そこで潮止め施設を設置して外海水の逆流を抑え、高酸素で低塩分の良好な水質の上層(淡水層)と下層(滞留塩水層)との境界となる塩分躍層の位置を下げて、年間を通して水深約3 m層まで淡水層とすることを目標にして来ました。

塩分躍層は通常EC(電気伝導度)で測定します(淡水に比べて塩水の方が遙かに電気を良く通す)。春採湖の最深部(水深5.8 m)におけるEC躍層(電気伝導度が急上昇する層)とDO躍層(DOが測定限界値である0.5 mg/ℓ、すなわちほぼ無酸素状態に低下する層)について、平成5年からの測定値を図4に示しました。旧潮止め施設の設置以前はECおよびDOの両躍層とも2 m前後でしたが、施設の設置に依り50 cmほど低下して2.5 m前後で推移して来ました。23年に恒久的な新潮止め堰が完成しましたが、翌24年にはECで3.9 m、DOで3.7 mと過去最深を記録しました。18年までの2～2.5 mと比較して1.5 m以上も低下し、良好な水質の層が水深4 m付近まで広がって来ました。そして26年はECは3.8 mで24年よりわずかに浅かったものの、DOは3.9 mで過去最深を記録しました。しかし27年は湖内水の擾乱作用に因りEC、DOとも3 m付近まで上昇し、20年以降では最も高く(淡水層が浅く)なりました。

(3) 春採川の水質

春採湖に流入する全河川水量の約90%を占める春採川の水質は春採湖内の水質にもある程度影響を及ぼしているものと推察されます。表2に春採川の水質の主要項目について示しましたが、27年の平均値はCODが前年の2.8 mg/ℓから3.0 mg/ℓへと若干増加(水質的には下降)しました。ただし他の項目も含めて差異は小さく、比較的清澄な水質状況にありました。台風などに因る一

時的な増水や泥濁も当然に推察されますが、湖沼と違って滞留することがないため、極小河川でもあり観測時には平常に戻っていたものと考えられ、湖内水のような多大な水質変動は認められませんでした。

(4) 要 約

春採湖の水質は、26年にはCOD値がSt. 1とSt. 2の年間平均値が6.9 mg/ℓで過去の最低を記録し、水質的な向上が認められました。しかし27年は一転し、CODの2地点の平均値が8.5 mg/ℓまで上昇して平成21年以降では最高値を示しました。この要因としては9、10月における台風による著しい荒天で、湖水の擾乱作用による底層水の表層水への混入や外海水の逆流などによる高塩分水の影響が多大であったものと推察されます。CODが10月にはSt. 1で10 mg/ℓ、St. 2で12 mg/ℓもの高い値が観測され、その影響が11月にも及びました。しかしながら4～8月においても、海水の逆流量が少なかったにもかかわらず表層塩分が漸増を続けた要因については明確ではありません。塩分の増加に伴ってECやDOの躍層も前年までと比較して1 m近く浅くなり、それだけ湖面からの淡水層が狭くなったことを示しました。27年のCODや塩分の上昇が台風などの荒天の影響に因る一過性なものか、それとも次年度以降にも継続するものか注視していく必要があります。

表 1. 表層水的环境基準点 (St. 1 と St. 2) の平均値。(単位は mg/ℓ。ただし pH は単位なし)

年 度	COD	(COD75%値)	T-N	T-P	D O	S S	C l ⁻	p H
平成27年	8.5	9.0	0.76	0.055	11.6	18.0	502	8.5(8.1~9.0)
平成26年	6.9	7.3	0.76	0.056	12.9	15.2	209	8.5(8.1~8.9)
環境基準値	5以下		1以下	0.1以下	5以上	15以下		6.5~8.5

※ COD の環境基準値は正式には平均値ではなく、各回の調査値を低い方から並べ、その75%に相当する段階の値を採用しており、年8回調査する春採湖では低い方から6番目の値となります。

表 2. 春採川の水質の主要項目 (単位は mg/ℓ。p H は単位なし)

年 度	COD	S S	T-N	T-P	D O
平成27年	3.0	2	1.4	0.021	11
平成26年	2.8	2	1.6	0.020	13



付図. 春採湖の水質調査地点

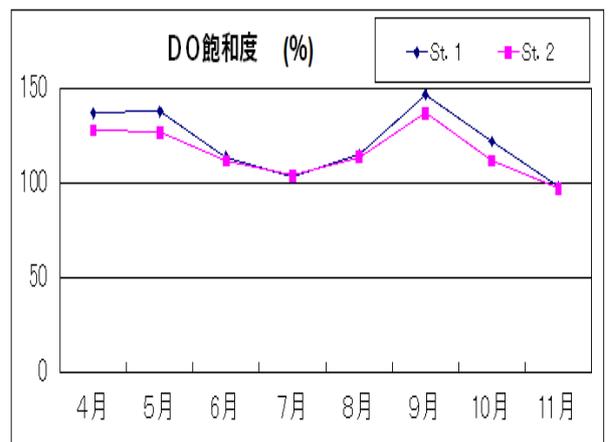
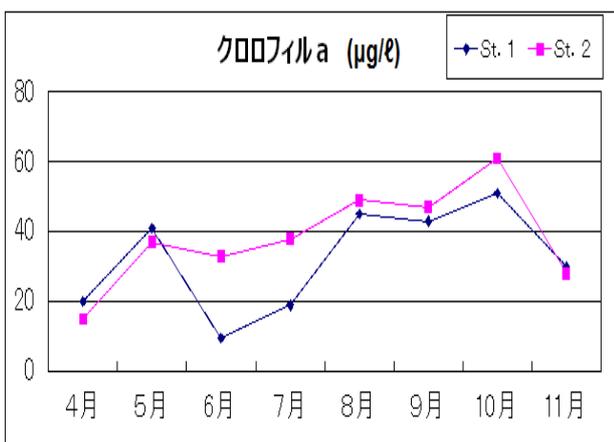
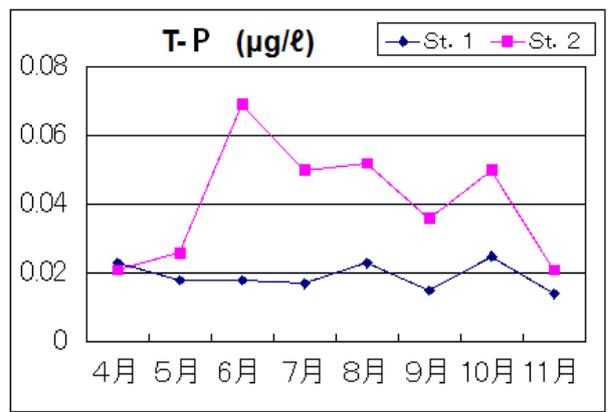
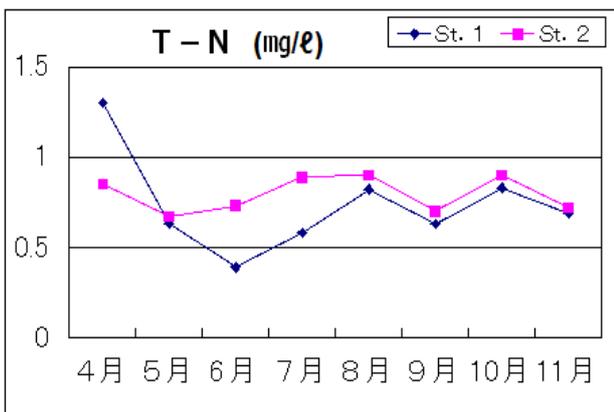
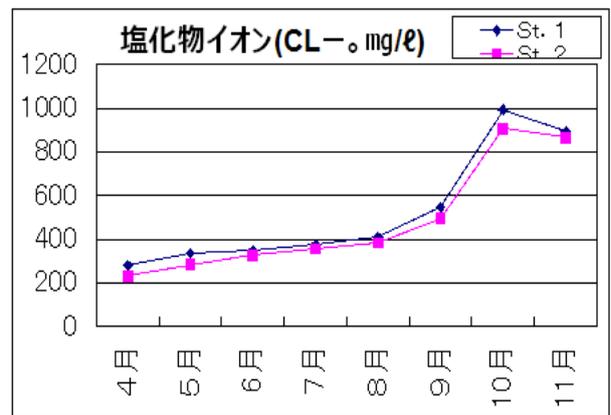
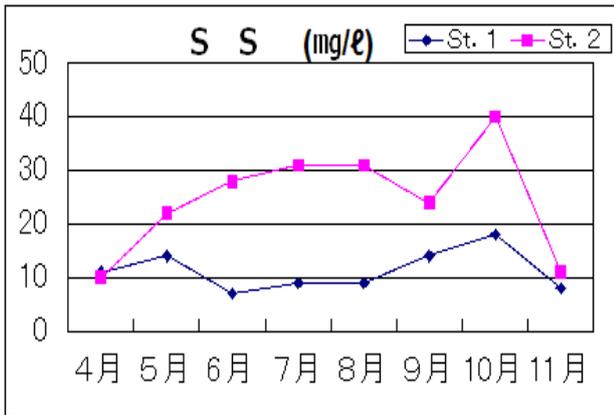
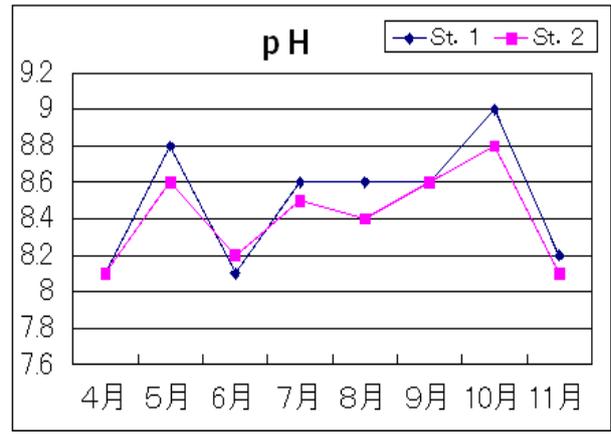
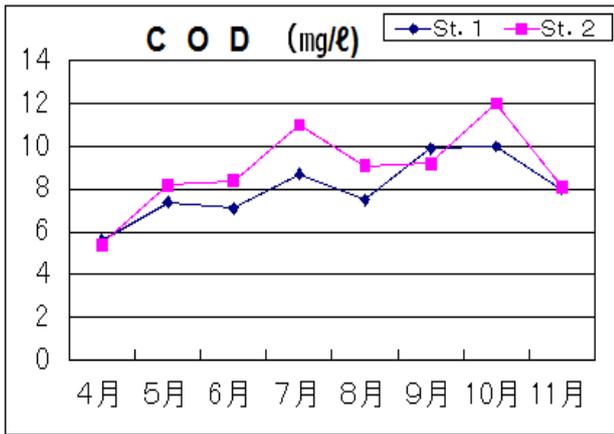


図1. 表層水の水質 (St. 1、St. 2)

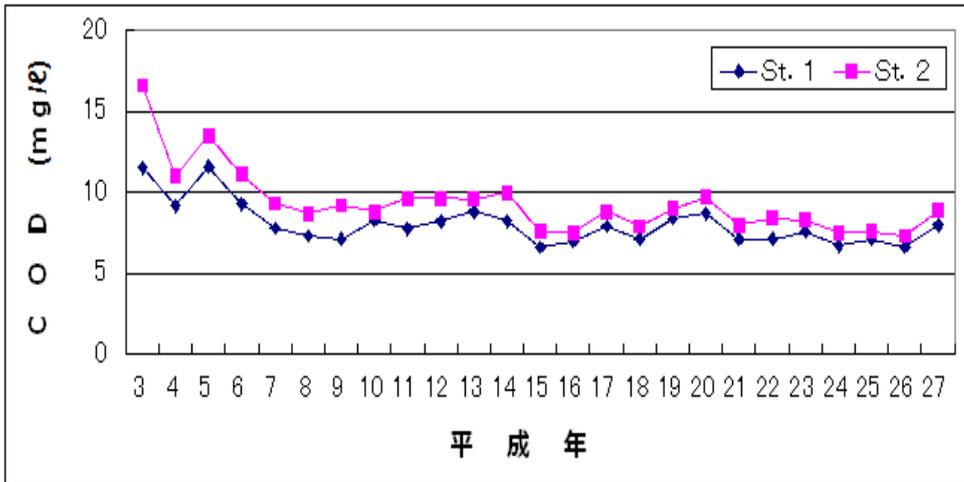


図2. 表層水のCODの経年変動

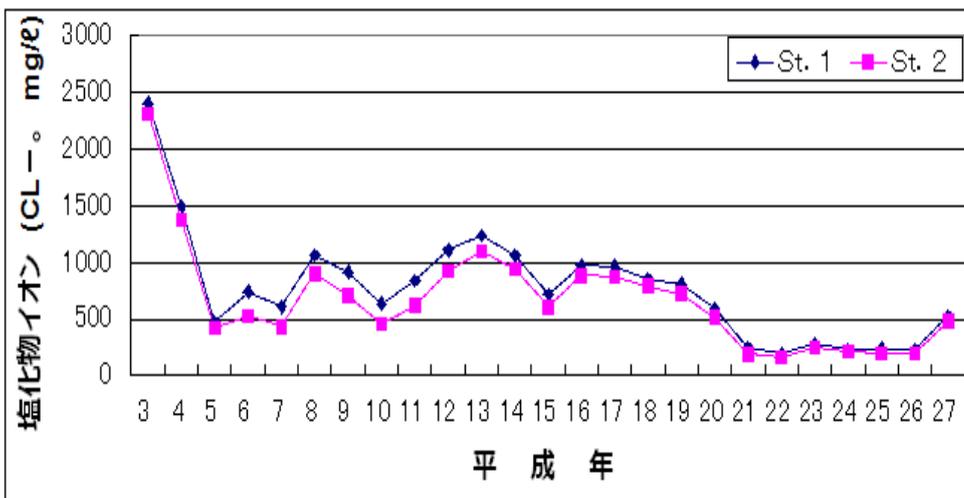


図3. 表層の塩分(塩化物イオン)の経年変動

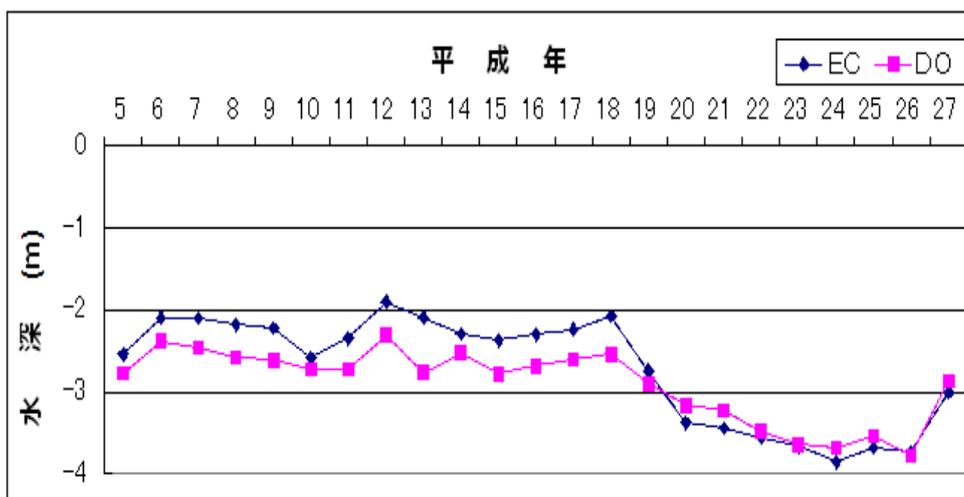


図4. EC・DOの躍層の経年変動

2 動物部門

A 魚類 (元釧路市立博物館 針生 勤)

① ヒブナ・フナの産卵状況について

ヒブナやフナが産卵する水草であるマツモやリュウノヒゲモなどの沈水植物が減少しており、2015年においてもその状況は変わりません。そこで、6月17日にヒブナ・フナの産卵状況を調査しました。また、併せて水草の生育状況についても調査しました。調査場所として湖岸一帯に26地点を設定しました(図1)。

その結果は下記のとおりです。

- (1) 26点の中で、No. 2、No. 4、No. 10、No. 13およびNo. 17の計5地点のみで産卵が確認されました。
- (2) 産卵巣(卵を産み付ける物体)は、No. 2とNo. 4の地点では人工水草でした。人工水草を設置してあるNo. 5において、6月17日の調査時には産卵が確認されませんでした。これ以前の調査では産卵が確認されていました。
- (3) 自然の産卵巣として、No. 10とNo. 13ではマツモ、No. 17ではエゾノミズタデなどの水草でした。卵が観察されたマツモは、湖岸に寄せ集められている断片のものでした。また、エゾノミズタデでは葉や茎に卵が確認されました。
- (4) 自然界に存在する産卵巣としての水草の生育状況がたいへん悪く、リュウノヒゲモに至っては調査時に確認できませんでした。このように、湖岸一帯における沈水植物が減少しており、産卵環境は引き続き悪化しているものと考えられました。

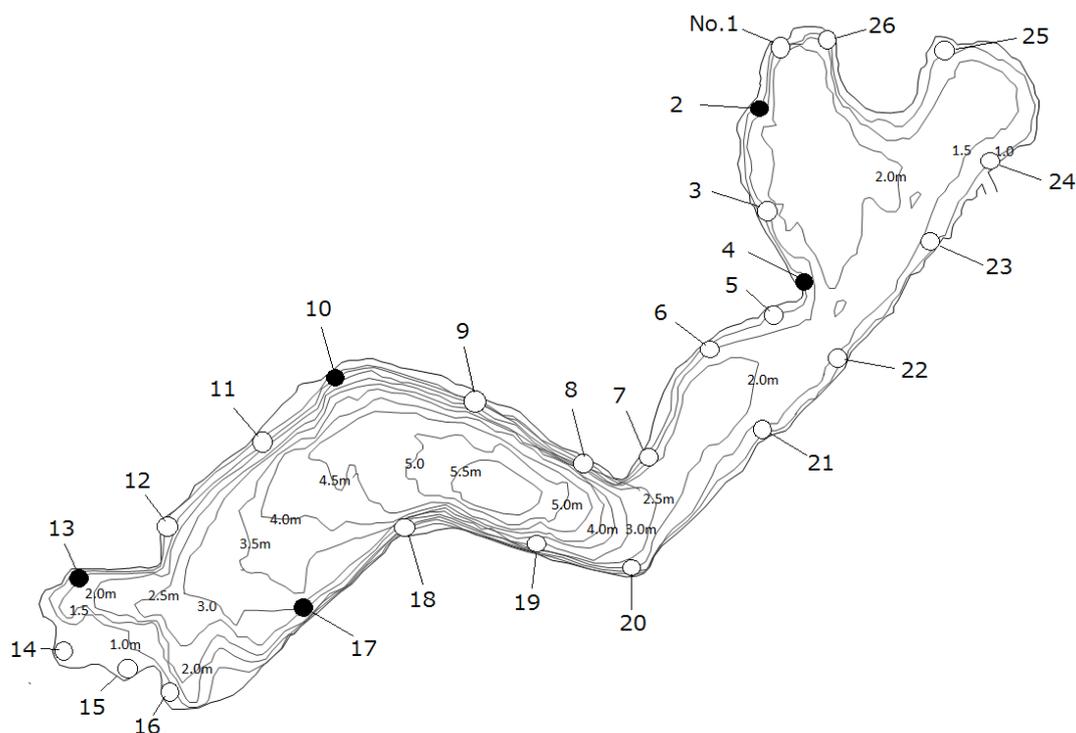


図1. 春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査地点。黒丸は産卵が確認された地点。

表 1. 2015 年 6 月 17 日 (天候:曇り、午前 11 時の気温 17.8℃) に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の結果。産卵が確認された調査地点は番号に下線が付してある。生育状況調査の対象にした水草はマツモおよびリュウノヒゲモである。

調査地点	時刻	水温	水草等の種類	産卵状況	水草の種類と生育状況
No. 1	11:08	20.9	ヨシの根	なし	ヨシ
<u>No. 2</u>	11:20	21.0	人工水草	卵確認 (2 本)	ヤラメスゲ
No. 3	11:45	21.1	枯ヨシの根・茎	なし	ヨシ
<u>No. 4</u>	11:54	20.7	人工水草	卵確認 (3 本)	ヨシ
No. 5	12:08	21.2	人工水草	なし	ヨシ
No. 6	12:33	20.8	ヨシの根・茎	なし	ヨシ、ヤラメスゲ、エゾノミズタデ
No. 7	13:02	21.0	スイレンの葉	なし	スイレン、ヨシ
No. 8	13:12	21.1	枯ヨシの根	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 9	13:24	21.0	ヨシの根	なし	ヨシ
<u>No. 10</u>	13:36	21.1	マツモの断片 (多)	極僅か	ヨシ、ヤラメスゲ、マツモ断片 (多)
No. 11	13:47	20.1	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 12	13:58	21.1	マツモ	なし	マツモ断片
<u>No. 13</u>	14:14	20.7	マツモ断片 (多)	極僅か	ヨシ、マツモ断片
No. 14	14:27	21.1	ヤラメスゲ、マツモ断片	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 15	14:35	21.3	マツモ断片	なし	ヨシ、マツモ断片 (多)
No. 16	14:45	20.5	ロープ、ヨシの茎	なし	ヨシ
<u>No. 17</u>	15:02	21.0	エゾノミズタデの葉	少量	エゾノミズタデ
			枯ヨシの根	僅か	
No. 18	15:16	20.6	枯ヨシの根	なし	ヨシ
No. 19	15:27	20.7	枯ヨシの根	なし	ヨシ
No. 20	15:36	20.1	枯ヨシの根・茎	なし	ヨシ
No. 21	15:52	20.8	枯ヨシの根	なし	ヨシ
No. 22	16:00	20.8	ヨシの根・ロープ	なし	ヨシ
No. 23	16:10	20.9	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 24	16:20	21.2	枯ヨシの根	なし	ヨシ
No. 25	16:28	21.7	枯ヨシの根	なし	ヨシ
No. 26	16:40	21.4	枯ヨシの根	なし	ヨシ、ヤラメスゲ、フトイ

② 人工水草における産卵状況について

近年、ヒブナ・フナが産卵する沈水植物のマツモとリュウノヒゲモが減少し、産卵環境が悪化していることから、2015年も引き続き保護対策として水草に代わる人工の産卵巣を設置し、産卵環境を確保しました。

春採湖岸の3か所（図2）において、6月2日に実際的水草に代わる産卵巣としてプラスチック製の人工水草をSt.1に80本、St.2とSt.3にそれぞれ60本、計200本を設置し、水面下表層に沈め、約5日おきに産卵状況を観察しました。

その結果は以下のとおりです。

- (1) 6月6日にいずれの地点においても、最初の産卵が確認されました（表2）。
- (2) 2015年は産卵時期が6月上旬と例年より早く、産卵のピークが6月上旬から中旬であったと思われます。
- (3) 産卵期間中における産卵が確認された人工水草の総本数は97本でした。これは設置した人工水草200本のうち、全体の48.5%が産卵場所として利用されており、産卵率は昨年より多い結果となりました。

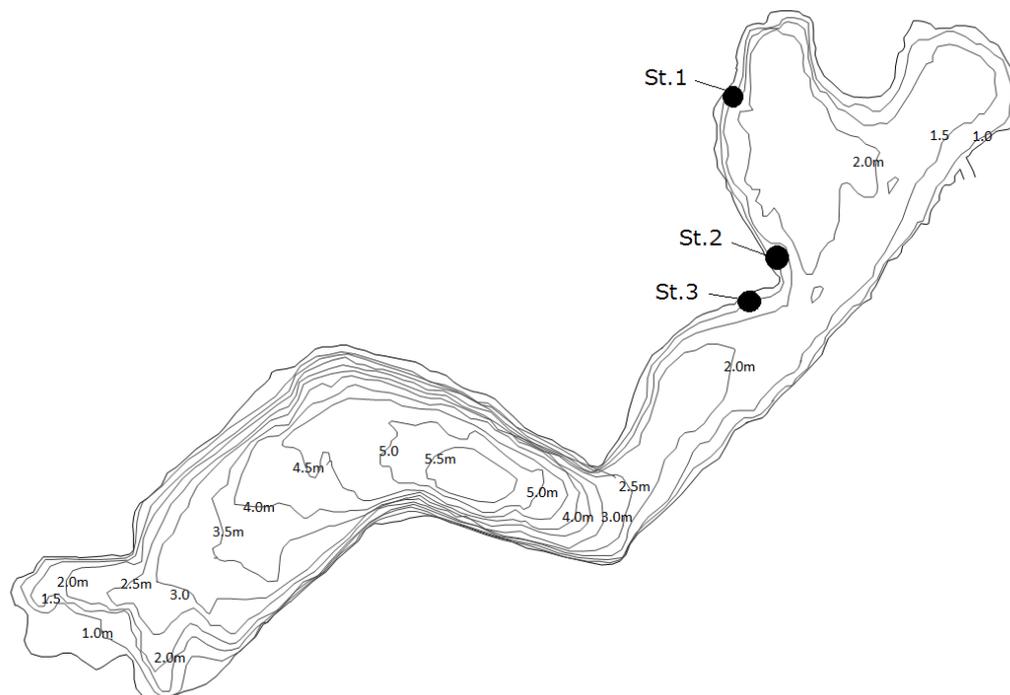


図2. 人工水草の設置場所（St.1～St.3）

図3. 人工水草の形状。プラスチック製で、長さ1.5mのロープに針状の無数の糸を編み込んだもの。片側の糸の長さ10cm、全体で20cmの幅である。



表2. 人工水草の設置経過および産卵状況の観察結果

月日	天候	地点	観察記録
6月2日	晴れ	St.1	80本設置・水面沈下
		St.2	60本設置・水面沈下
		St.3	60本設置・水面沈下
6月6日	曇り	St.1	10本産卵
		St.2	35本産卵
		St.3	40本産卵
6月11日	曇り	St.1	4本産卵
		St.2	40本産卵
		St.3	16本産卵
6月17日	曇り	St.1	2本産卵
		St.2	3本産卵
		St.3	1本産卵
6月24日	晴れ	St.1	産卵なし
		St.2	産卵なし
		St.3	産卵なし

2 動物部門

B ウチダザリガニ (北海道教育大学 蛭田 眞一)

平成 27 年度における春採湖ウチダザリガニ捕獲事業は、昨年度と同様に業務を委託された NPO 法人環境把握推進ネットワーク PEG によって実施されました。平成 22 年度の生息数調査結果を受けての第 5 回目の捕獲事業となります。本調査に関わった春採湖ウチダザリガニ捕獲事業推進委員会の座長として、蛭田が調査結果の概要について報告します。

1. 捕獲地点

平成 27 年度は、昨年度と同じ様式での捕獲を試みましたが、10 月 2 日及び、3 日に実施予定であった春採湖北東部における捕獲は天候不良のため中止としました。ただし、補完調査として 10 月 26 日に漁具の設置を行い、その引き上げを 10 月 27 日に実施しました。

① 平成 18 年度から実施している湖岸約 30 メートル間隔の 140 地点において、6 月に例年通りの捕獲を行いました (図 1)。

② 9 月 29～10 月 7 日 (10 月 2 日、10 月 3 日を除く) 及び 10 月 27 日に平成 22 年度の生息数推定で大きな値を示した春採湖北東部の湖岸 70 地点において捕獲を実施しました (図 2)。

2. 捕獲状況

湖岸全域にわたる 6 月の作業において、928 個体 (雄 540、雌 388) が捕獲され、9 月 29 日～10 月 7 日の湖北東部における捕獲では 1788 個体 (雄 938、雌 850) が捕獲されました。また、補完調査によって 184 個体 (雄 125、雌 59) が捕獲されました。今年度は計 2900 個体を春採湖から排除したことになります。昨年度は計 2889 個体が捕獲されているので、ほぼ同数という結果になりました (表 1)。

6 月 16 日～19 日に実施した湖岸全域における捕獲作業において、抱卵個体および稚エビを腹部に抱えた雌個体 (以下 抱仔個体) が 1 個体捕獲されました。昨年度の同時期の捕獲作業では抱卵個体が 18 個体捕獲されており、これは今年度の調査時期が昨年度より約 10 日遅かったため、多くの雌個体が抱仔を終え、稚エビを放していたことが要因であると考えられます。

また、10 月 27 日に実施した補完調査では 10 個体の抱卵個体が捕獲されました。9 月 29 日～10 月 7 日の調査では、抱卵個体 1 個体と交尾後と考えられる雌 4 個体 (精苞の付着している個体) が確認されました。ウチダザリガニでは、交尾・産卵は秋期に行われることが知られていますが、今年度の調査結果は、春採湖における交尾・産卵は 9 月～10 月であることを示しています。

3. 湖岸全域調査 (図 3)

湖岸全域での捕獲数は今年度 928 個体でしたが、これは昨年度 (104 個体) と比較すると非常に大きな値で、平成 25 年度の 930 個体とほぼ同じ値です。平成 25 年度の捕獲作業は 6 月 27 日～30 日で、今年度よりも捕獲時期は遅かったです。

捕獲個体数が少なかった平成 26 年度では、抱卵・抱仔個体が 18 個体で、今年度の抱仔 1 個体、平成 25 年度の抱卵・抱仔 0 個体と比較すると多くの抱卵・抱仔個体が捕獲されています。このことから、6 月における捕獲個体数は雌個体の抱卵・抱仔時期に大きく影響を受け、今年度及び平成 25 年度は、抱卵・抱仔時期を終えていたため、ウチダザリガニ (特に雌個体) の活動が活発になり、捕獲数が増加したものと考えられます。

図 4 に示されていますが、全長 100～110 mm の個体が多く捕獲されています。昨年度の考察でもふれましたが、今年度も大型個体 (全長 130 mm 以上) は少なかったです。また特記すべき点として、全捕獲個体のうち 80 mm 以下の個体の割合が平成 23 年度に次いで大きな値となっています (表 2)。ウチダザリガニの性的成熟サイズが 80 mm 前後であるので、今年度の捕獲では性的成熟前の個体を多く捕獲したことになります。これまでの捕獲作業によって大型個体が除去されたことにより、トラップで捕えられる性的成熟前の個体の割合が高くなってきたことが考えられますが、今後も検討が必要です。

4. 湖岸北東部調査 (図 5)

春採湖北東部では、今年度は昨年度の捕獲数 2785 個体より少ない 1972 個体が捕獲されました。今年度は悪天候のため 10 日間調査期間中捕獲できたのは 8 日間で、その後補完調査を実施しましたが、捕獲作業実施日数は昨年度より 1 日少なくなりました。捕獲作業時の水温は、昨年度は約 14℃であったのに対し、今年度の 10 日間調査では約 18℃とやや高く、補完調査時では約 12℃と低い値でした。

今年度の調査では湖北東部において水草の生育は確認できませんでしたが、悪天候であった日の翌日 (10 月 4 日) に地点 45 周辺の湖岸にマツモが打ち上げられていることが確認されています。目視でのマツモの生育は確認できませんでしたが、湖北東部で生育している可能性があります。

補完調査によって捕獲された個体は 184 個体で、そのうち雄は 125 個体、雌は 59 個体と雌の個体数が少ない結果でした。さらに、捕獲された雌 59 個体のうち 10 個体が抱卵個体でした。抱卵している個体はあまり活動しなくなるため、雄個体と比べ雌個体の捕獲個体数が少なくなったものと考えられます。抱卵個体のうち全長の最も小さな個体は 77mm でした。捕獲された雌 59 個体のうち 77 mm 以上の個体は 19 個体で、その中の約半分である 10 個体が抱卵していました。

5. 次年度以降の捕獲事業に向けて

春採湖でウチダザリガニの捕獲作業を開始した平成 18 年以降の捕獲数の推移を見ると、

減少の傾向がみられません。しかし、平成 23 年度から実施しているウチダザリガニの生息数が多いと考えられた湖北東部での集中的な捕獲作業により、それ以前よりも効率的に多くの個体を捕獲することができています。また、昨年度も述べたように大型個体の個体数の減少や湖内の水草の生育範囲の増加などの変化も確認されるようになってきています。今後春採湖からウチダザリガニの生息数を減らし、より効果的な防除を行うためには、性的成熟前の小型個体の捕獲方法の検討も必要です。

抱卵・抱仔個体の除去は新規参入個体の抑制に効果的であると考えられます。10 月 26 日、27 日に実施した補完調査によって、春採湖に生息するウチダザリガニが 10 月下旬に抱卵していることが明らかになりました。この結果から、抱卵個体に焦点を当てた捕獲を行うのであれば、10 月下旬頃に捕獲作業を実施するのがよいと考えます。

上記のように捕獲に関して、いくつか検討すべきことがあります。根絶がむづかしい春採湖に生息するウチダザリガニの捕獲について、一定程度の目標を定めて捕獲事業を進めることを考える時期に来ています。そのために、春採湖におけるウチダザリガニの正確な生息状況を把握することが必要です。平成 22 年度に釧路市が実施した「春採湖生物多様性保全調査業務」では生息個体数推定調査が実施されましたが、それ以後、そのような調査は実施されていません。3 年毎あるいは 5 年毎など定期的にも実施していく必要があると考えます。

図1. 春採湖湖岸の捕獲地点 (140 地点)

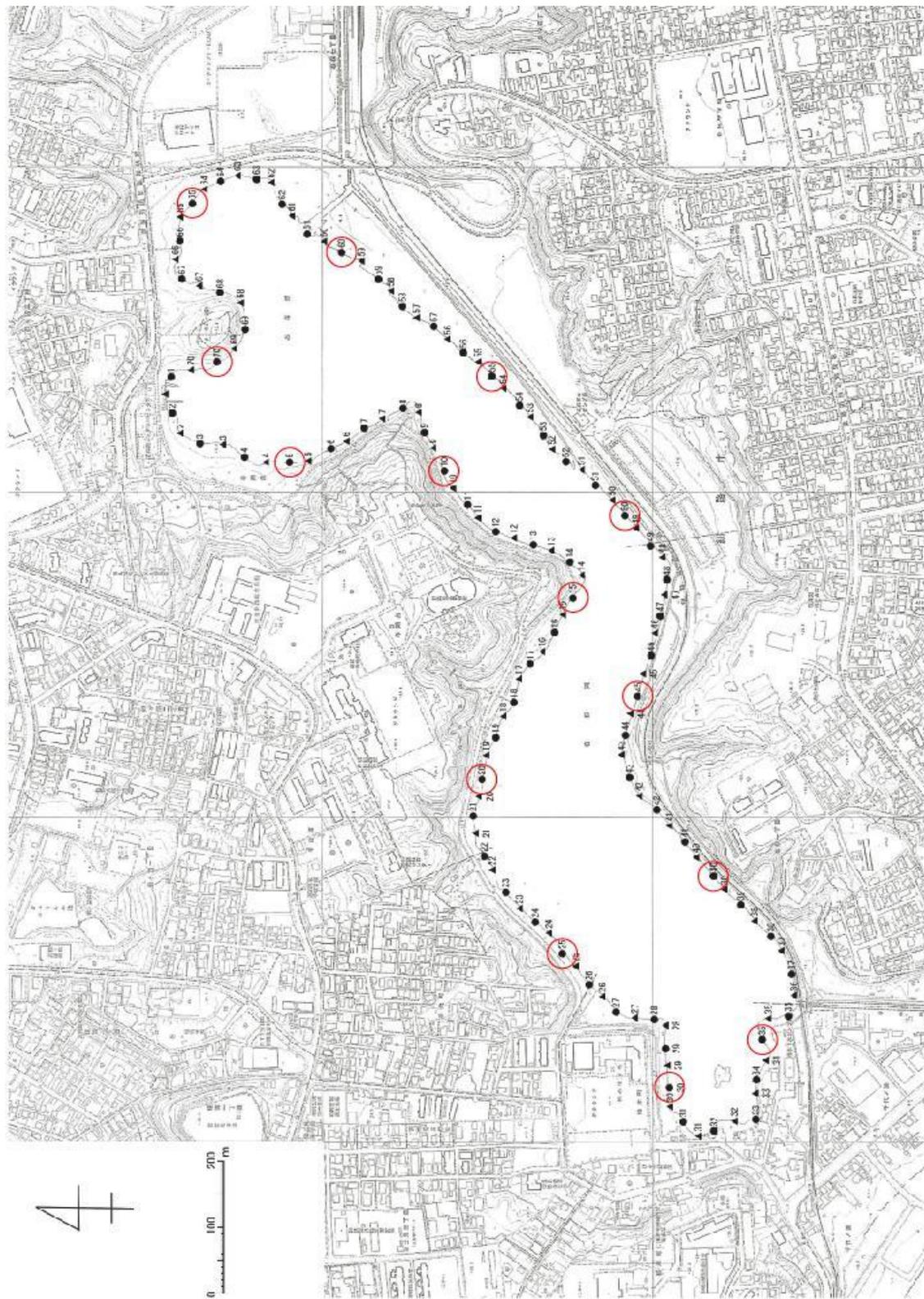


図2. 湖東北部の捕獲地点 (70 地点)

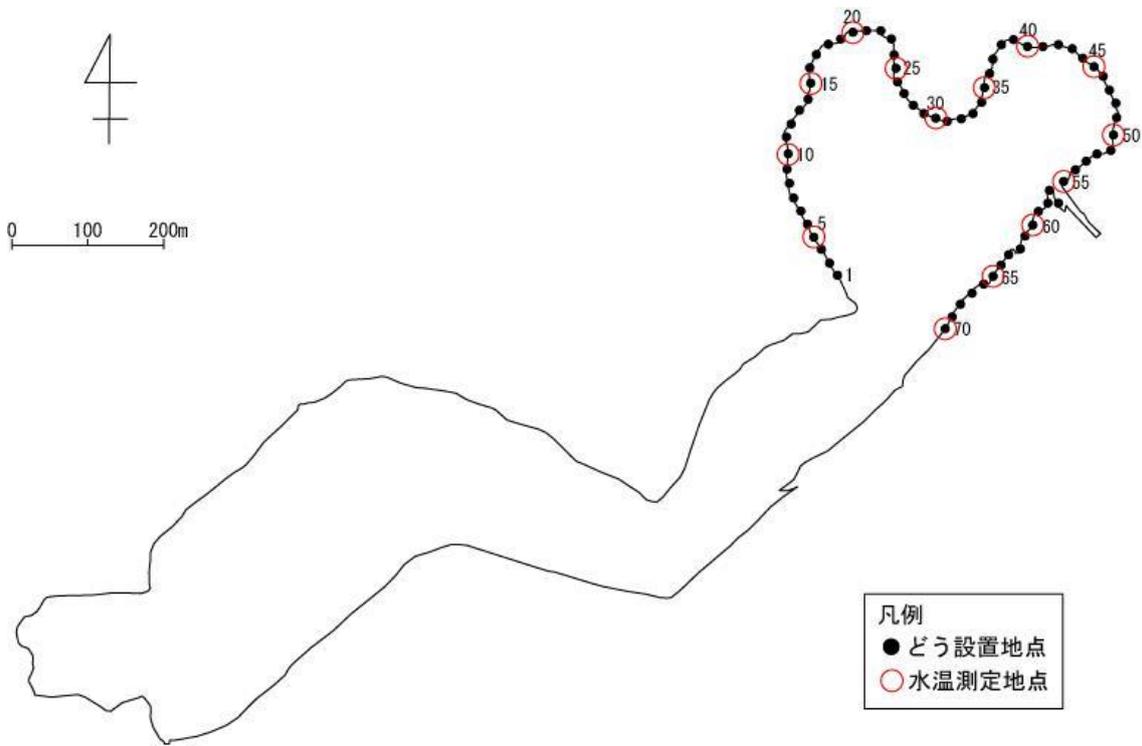


図3. 雌雄別捕獲分布

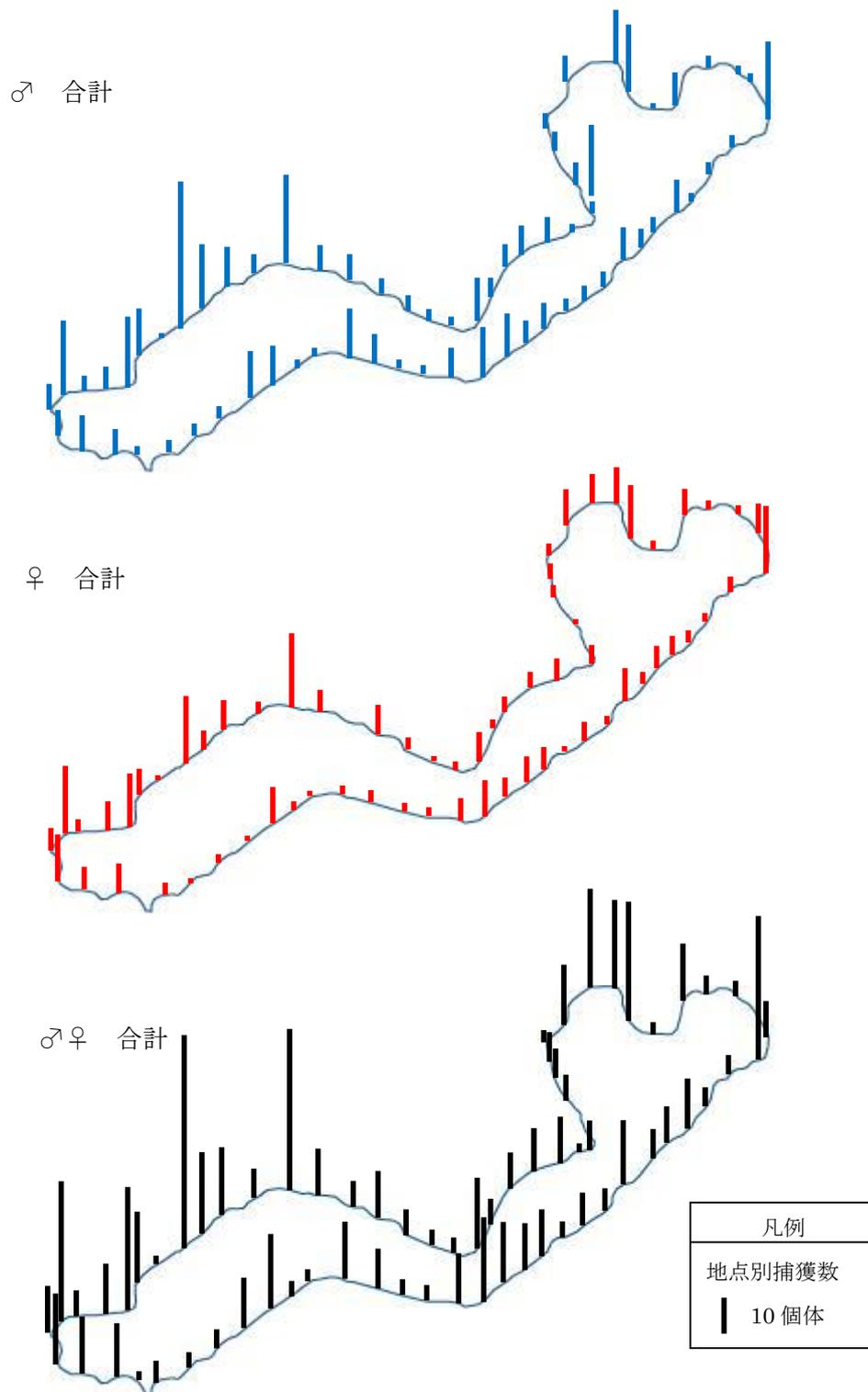


図4. 全長と個体数（湖岸全域調査）

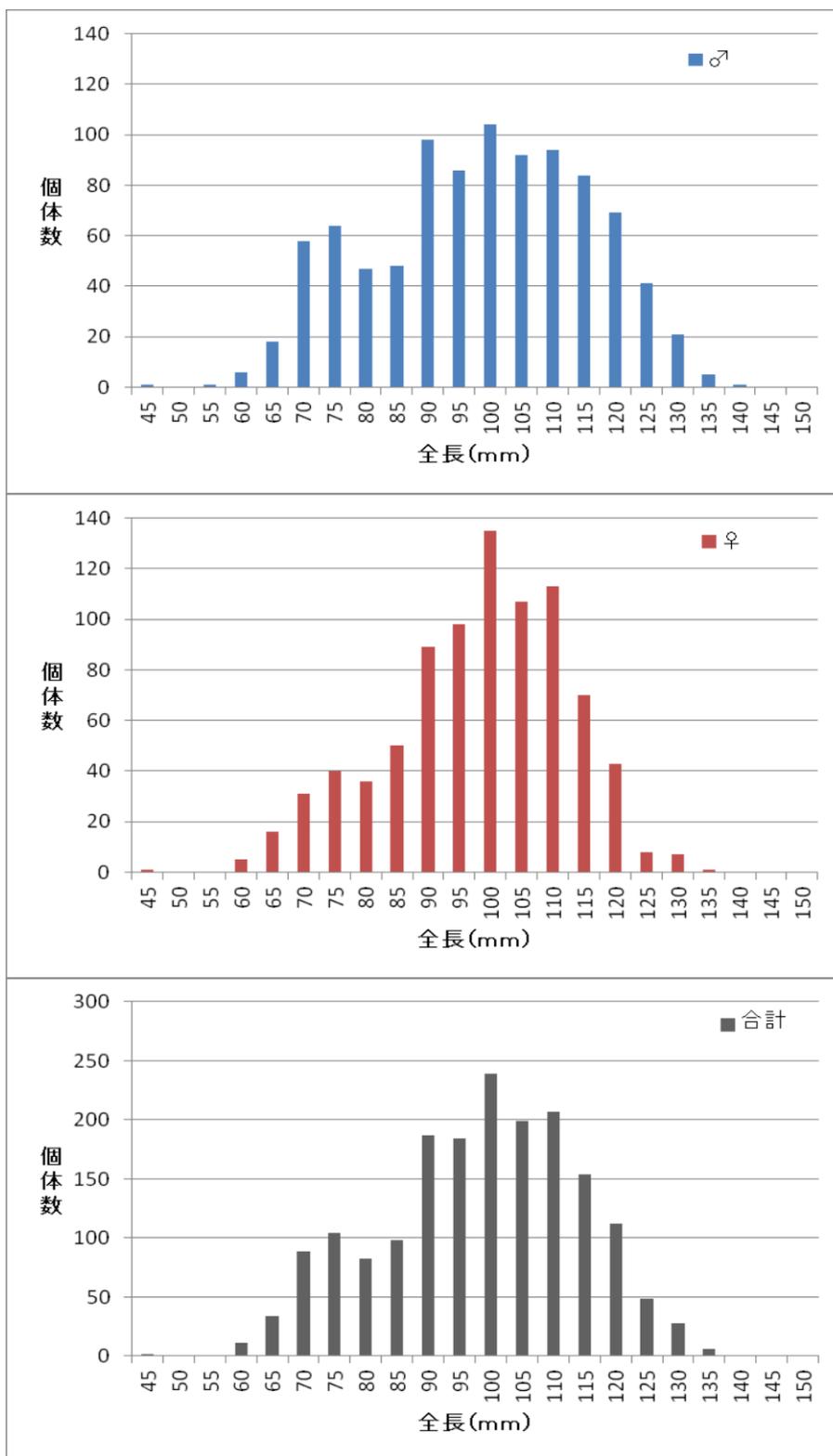
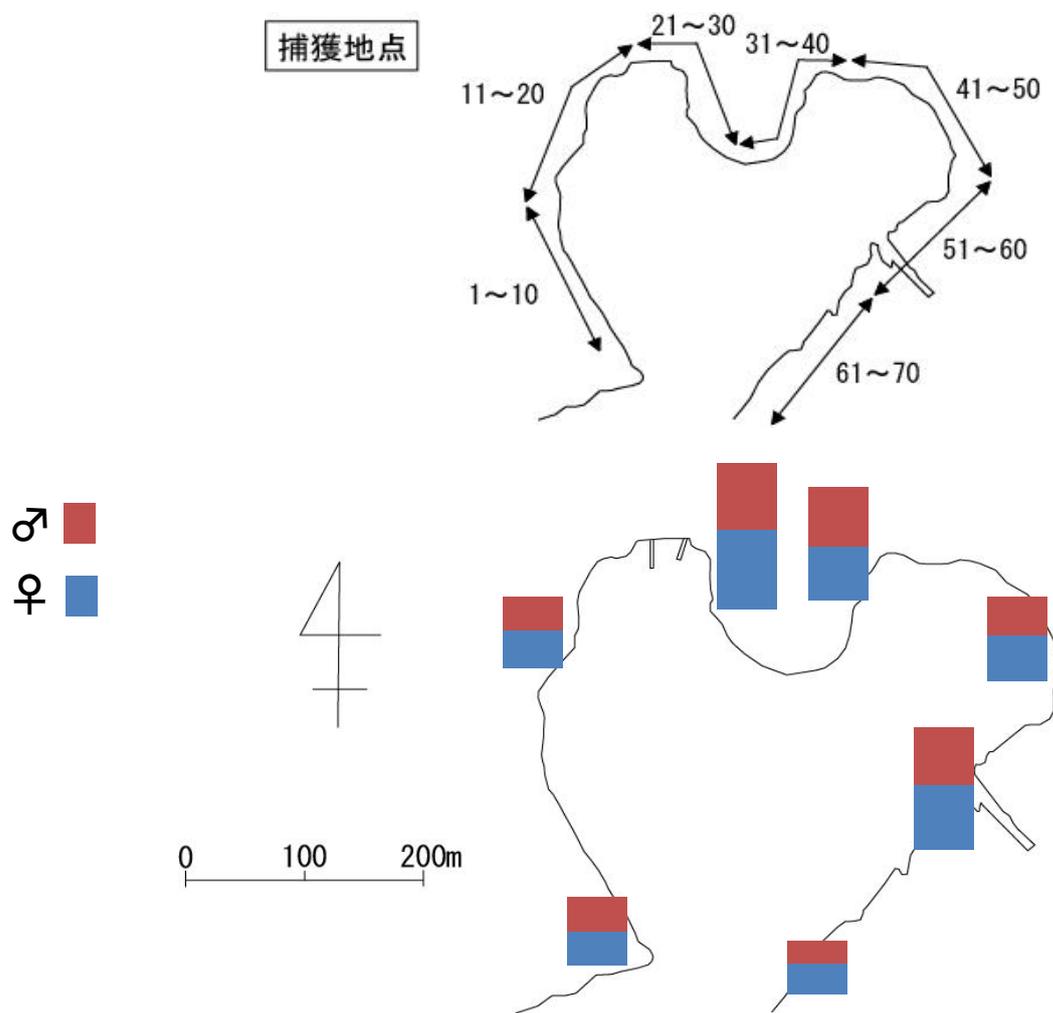


図 5. 捕獲数分布 (湖東北部調査)



地点	♂	♀	合計
1~10	90	96	186
11~20	104	90	194
21~30	217	180	397
31~40	147	159	306
41~50	123	103	226
51~60	175	157	332
61~70	82	65	147
合計	938	850	1788

表1 ウチダザリガニ捕獲結果

湖東北部調査捕獲数 (個体数)

捕獲日	♂	♀	合計
平成27年6月16日	161	115	276
平成27年6月17日	119	71	190
平成27年6月18日	121	94	215
平成27年6月19日	139	108	247
合計捕獲数	540	388	928

湖岸全域調査捕獲数 (個体数)

捕獲日	♂	♀	合計
平成27年9月29日	215	205	420
平成27年9月30日	112	130	242
平成27年10月1日	77	63	140
平成27年10月4日	253	249	502
平成27年10月5日	93	69	162
平成27年10月6日	93	49	142
平成27年10月7日	95	85	180
合計捕獲数	938	850	1788

補完調査 (個体数)

捕獲日	♂	♀	合計
平成27年10月27日	125	59	184

表 2 年度別にみた全長 80 mm以下の捕獲個体数

年度	捕獲個体数	総捕獲個体数	80 mm以下個体の割合 (%)
平成 20 年度	32	1490	2.1
平成 21 年度	117	1971	5.9
平成 22 年度	196	1461	13.4
平成 23 年度	474	2680	17.7
平成 24 年度	263	1680	15.7
平成 25 年度	386	3654	10.6
平成 26 年度	289	2889	10.0
平成 27 年度	457	2900	15.8

2 動物部門

C 春採湖畔探鳥会（釧路市博物館）

日本野鳥の会釧路支部と釧路市立博物館では、毎年「春採湖畔探鳥会」と銘打って4月から11月までの毎月1回、春採湖畔の探鳥会を開催しています。平成27年度は4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日（11月は雨天中止）に実施し、次のような野鳥を観察することができました。※名前の順番は「日本鳥類目録改訂第7版」に基づいています。

番号	種名	移動習性	4月19日	5月17日	6月21日	7月19日	8月16日	9月20日	10月18日	春採湖での生息状況
1	ヒトリガモ	冬鳥	○						○	ときどき飛来
2	マガモ	留鳥			○			○	○	繁殖
3	バンビロガモ	冬鳥							○	ときどき飛来
4	コガモ	冬鳥	○	○					○	ときどき飛来
5	キンクロハジロ	冬鳥		○						ときどき飛来
6	カワアイサ	冬鳥	○							ときどき飛来
7	カイツブリ	夏鳥	○	○	○		○	○	○	繁殖
8	バンロカイツブリ	冬鳥						○		ときどき飛来
9	キンハト	夏鳥			○	○		○	○	ときどき飛来
10	アオハト	夏鳥				○	○			ときどき飛来
11	ウミウ	留鳥	○						○	ときどき飛来
12	アオサギ	夏鳥	○		○	○		○		よく飛来
13	オオバン	夏鳥	○	○	○			○		繁殖
14	カッコウ	夏鳥			○					ときどき飛来
15	オオジシギ	夏鳥			○					ときどき飛来
16	アマツバメ	夏鳥				○	○		○	ときどき飛来
17	ユリカモメ	旅鳥							○	ときどき飛来
18	ウミネコ	夏鳥	○		○		○	○		ときどき飛来
19	ワシカモメ	冬鳥		○						ときどき飛来
20	オオセグロカモメ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	よく飛来
21	ミサゴ	夏鳥						○		ときどき飛来
22	トビ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	繁殖
23	ヤマセミ	留鳥					○			稀に飛来
24	コゲラ	留鳥		○	○	○		○		繁殖
25	アカゲラ	留鳥	○	○		○	○			繁殖の可能性あり
26	モス	夏鳥			○		○			ときどき飛来
27	カケス	漂鳥							○	ときどき飛来
28	バンボソガラス	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	繁殖
29	バンブトガラス	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	繁殖
30	バンブトガラ	留鳥	○	○	○	○		○	○	繁殖

31	ヒガラ	留鳥	○	○	○	○	○		○	繁殖の可能性あり
32	シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	繁殖
33	ヒバリ	夏鳥			○					繁殖の可能性あり
34	ショウトウツバメ	夏鳥			○	○	○			ときどき飛来
35	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○	○		○	繁殖
36	ウグイス	夏鳥		○	○					繁殖
37	エゾムシクイ	夏鳥			○					ときどき飛来
38	センダイムシクイ	夏鳥		○	○	○	○	○		繁殖
39	メジロ	夏鳥							○	繁殖の可能性あり
40	シマセンニュウ	夏鳥			○	○	○			繁殖
41	エゾセンニュウ	夏鳥			○	○	○			繁殖
42	コヨシキリ	夏鳥			○	○	○	○		繁殖
43	ゴジュウカラ	留鳥	○	○				○	○	繁殖
44	ムクドリ	夏鳥			○					繁殖の可能性あり
45	コムクドリ	夏鳥		○	○					繁殖
46	アカハラ	夏鳥						○		ときどき飛来
47	ツグミ	冬鳥	○							ときどき飛来
48	ノゴマ	夏鳥			○	○				繁殖
49	ヒゲタキ	夏鳥		○	○	○	○	○		繁殖
50	コサメビタキ	夏鳥					○	○		ときどき飛来
51	キビタキ	夏鳥		○						ときどき飛来
52	スズメ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	繁殖
53	ハクセキレイ	夏鳥	○	○	○	○	○	○		繁殖
54	アトリ	冬鳥	○							ときどき飛来
55	カラヒトリ	夏鳥	○	○	○	○	○		○	繁殖
56	ベニマシコ	夏鳥			○					ときどき飛来
57	シメ	夏鳥	○				○		○	ときどき飛来
58	アオジ	夏鳥		○	○	○	○	○	○	繁殖
59	オオジュリン	夏鳥			○	○	○	○		繁殖
観察種類数		-	24	25	36	26	27	25	24	-

3 植物部門

A 春採湖畔草花ウォッチング（釧路市博物館）

釧路市立博物館では毎年5月から9月までの第3土曜日に植物観察会「草花ウォッチング」を行っています。下記の表は観察会のコースで確認した野草園と遊歩道沿いの被子植物の主なリストです。このリストにはイネ科、カヤツリグサ科、イグサ科は収録していません。また、個体数が減少し観察が困難なものも入れていません。2015年度の開催日は5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月19日です。

表中の記号は【つ】：つぼみ 【○】：花 【み】：実 【☆】：コース外

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
1	アキカラマツ	キンポウゲ			つ○	○み	み	
2	アキタブキ	キク	み					
3	アキノウナギツカミ	タデ				つ○	○み	
4	アズマイチゲ	キンポウゲ	み					
5	アメリカセンダングサ	キク					○	外来
6	アヤメ	アヤメ		○	み	み	み	野草園
7	アラゲハンゴンソウ	キク			○	○	○	外来
8	イケマ	ガガイモ		つ	つ○	○み	み	
9	イチゲフウロ	フウロソウ				○		
10	イヌタデ	タデ				○	○み	
11	イヌツルウメモドキ	ニシキギ		○	み	み	み	つる性の木
12	イワアカバナ	アカバナ			○	○	み	
13	ウツボグサ	シソ			○	○み	○み	
14	ウマノミツバ	セリ			○	み	み	
15	ウラホロイチゲ	キンポウゲ	☆み					移入？
16	エゾイチゴ(ウラジロ)	バラ			○み	み		木
17	エゾイヌゴマ	シソ			○	○	み	
18	エゾイラクサ	イラクサ		つ	○	○み	み	
19	エゾエンゴサク	ケシ	○み					
20	エゾオオサクラソウ	サクラソウ	○み					
21	エゾオオヤマハコベ	ナデシコ		○	○	○み	○み	
22	エゾカラマツ	キンポウゲ	つ	○				
23	エゾカワラナデシコ	ナデシコ				○	○	
24	エゾクサイチゴ	バラ	○	○	み			
25	エゾゴマナ	キク						
26	エゾスカシユリ	ユリ		○	み	み		
27	エゾスグリ	ユキノシタ	☆○	み	み	み	み	木
28	エゾタチカタバミ	カタバミ			○	○		
29	エゾタツナミソウ	シソ			○み			
30	エゾタンポポ	キク	○					

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
31	エゾトリカブト	キンポウゲ				○	○	
32	エゾナミキ	シソ				○		
33	エゾニワトコ	スイカズラ	つ	み	み	み	み	木
34	エゾノウワミズザクラ	バラ	○	み	み			木
35	エゾノカワラマツバ	アカネ			○			
36	エゾノギシギシ	タデ			○み	み	み	
37	エゾノキリンソウ	ベンケイソウ				み		
38	エゾクロクモソウ	ユキノシタ					○み	
39	エゾノシシウド	セリ		○	み	み	み	
40	エゾノシモツケソウ	バラ			○	み	み	
41	エゾノタチツボスミレ	スミレ				み		
42	エゾノヨロイグサ	セリ			つ○	み	み	
43	エゾノレンリソウ	マメ			○	○み	み	
44	エゾハタザオ	アブラナ			○	○み	○み	
45	エゾヒメアマナ	ユリ	☆み					
46	エゾヒョウタンボク	スイカズラ	☆つ	み	み	み	み	木
47	エゾフウロ	フウロソウ		○	○	○	○	
48	エゾミズタマソウ	アカバナ			○	○	み	
49	エゾミソハギ	ミソハギ			○	○	み	
50	エゾヤマアザミ	キク				つ○	○み	
51	エゾヤマザクラ	バラ	○	み	み			木
52	エゾヤマハギ	マメ				○	○み	木
53	エンコウソウ	キンポウゲ						移入
54	オオアマドコロ	ユリ	つ	み	み	み	み	
55	オオアワダチソウ	キク				○	○	外来
56	オオイタドリ	タデ			つ○	○	み	
57	オオウバユリ	ユリ		つ	○	み	み	
58	オオカサモチ	セリ				み		
59	オオダイコンソウ	バラ		○	○み	み	み	
60	オオツリバナ	ニシキギ	つ	○	み	み	み	木
61	オオハコベ	ナデシコ	○	○				移入
62	オオバコ	オオバコ				○み	み	
63	オオバセンキュウ	セリ				つ	○み	
64	オオハナウド	セリ		○	○み	み	み	
65	オオバナノエンレイソウ	ユリ	○	み	み			
66	オオバナヤエムグラ	アカネ			つ	○み	み	
67	オオハンゴンソウ	キク				○		外来
68	オオヤマフスマ	ナデシコ		○				
69	オオヨモギ	キク			つ	つ	○み	
70	オトギリソウ	オトギリソウ			○	○	み	

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
71	オトコヨモギ	キク						
72	オドリコソウ	シソ	☆○	○				
73	オニノゲシ	キク			○	○	○み	外来
74	オニユリ	ユリ				つ○	み	外来
75	オミナエシ	オミナエシ			つ○	○	○み	野草園
76	カセンソウ	キク				○		
77	カタバミ	カタバミ						
78	カラフトダイコンソウ	バラ		○				
79	カラフトホソバハコベ	ナデシコ		☆○	○	○		
80	カラマツ	マツ	○	み	み	み	み	木・植栽
81	カンボク	スイカズラ						木
82	キクムグラ	アカネ		○	み			
83	キジムシロ	バラ	○	☆○				
84	キタコブシ	モクレン	○	み	み	み		木
85	キタノコギリソウ	キク			つ○	○	○み	
86	キタミフクジュソウ	キンポウゲ	☆み					
87	キツリフネ	ツリフネソウ			○	○み	○み	
88	キバナノアマナ	ユリ	み					
89	キレハイヌガラシ	アブラナ			○み	○み	○み	外来
90	キンミズヒキ	バラ			つ○	○み	み	
91	クサノオウ	ケシ	つ○	○	○み	○み	○み	
92	クサフジ	マメ			○	○み	○み	
93	クサレダマ	サクラソウ			つ	○	み	
94	クマイチゴ	バラ		○		み		木
95	クルマバナ	シソ						
96	クロユリ	ユリ	つ○	み				
97	ゲンノショウコ	フウロソウ			○	○	み	
98	コウゾリナ	キク			○	○み	み	
99	コウライテンナンショウ	サトイモ	☆つ	○	み	み	み	
100	コウリントンポポ	キク			○			外来
101	コケイラン	ラン		☆○				
102	ゴボウ	キク			つ	○	○み	外来
103	コンロンソウ	アブラナ	つ	○み	み			
104	サナエタデ	タデ						
105	サラシナショウマ	キンポウゲ			つ	つ	○み	
106	サルナシ	マタタビ			○			つる性の木
107	シウリザクラ	バラ	☆つ	○	み	み	み	木
108	シコタンキンポウゲ	キンポウゲ		○	○み	み		
109	シャク	セリ	つ○	○み	み	み		
110	シラヤマギク	キク				○	み	

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
111	シロイヌナズナ	アブラナ	☆○	○	○み			
112	シロツメクサ	マメ		○	○	○	○	
113	シロネ	シソ				○	み	
114	スイレン	スイレン		○	○	○	○	外来・植栽
115	ススキ	イネ				○	み	
116	スズラン	ユリ		み	み	み	み	野草園
117	セイヨウタンポポ	キク	○	○み	○み	○	○み	外来
118	セイヨウノコギリソウ	キク		っ	○	○	○み	外来
119	センダイハギ	マメ		○	み			
120	ゼンテイカ	ユリ		○	み	み		
121	センボンヤリ	キク						
122	ダイコンソウ	バラ			○	○		
123	タニソバ	タデ				○	○	
124	チシマアザミ	キク		○	○	○み	み	
125	チシマオドリコソウ	シソ				○	み	外来
126	チシマザクラ	バラ	○	み	み			木・植栽
127	チシマネコノメソウ	ユキノシタ	○	み				
128	チドリケマン	ケシ			っ○	○み	○み	
129	チョウセンゴミシ	マツブサ		○み	み	み	み	つる性の木
130	ツボスミレ	スミレ	○	☆み				
131	ツマトリソウ	サクラソウ		み				
132	ツメクサ	ナデシコ			○	み	み	
133	ツリガネニンジン	キキョウ			っ○	○	○み	
134	ツリバナ	ニシキギ	っ	○	み	み	み	木
135	ツルキジムシロ	バラ	○	○				
136	ツルネコノメソウ	ユキノシタ	○	み				
137	トガスグリ	ユキノシタ	☆○	☆み	☆み			木
138	ドクゼリ	セリ			○	み		
139	ドロノキ	ヤナギ		み				木・植栽
140	ナガバギンギシ	タデ				み	み	外来
141	ナガバヤナギ	ヤナギ						木
142	ナガボノシロワレモコウ	バラ			っ	○	○み	
143	ナギナタコウジュ	シソ					○	
144	ナズナ	アブラナ	○	○	○み	○み	み	
145	ナナカマド	バラ	っ	み	み	み	み	木
146	ナミキソウ	シソ						
147	ニリンソウ	キンポウゲ	○					
148	ネコヤナギ	ヤナギ						木
149	ネジバナ	ラン				○		
150	ネムロブシダマ	スイカズラ	☆っ	み	み	み	み	木

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
151	ノハナショウブ	アヤメ			○	み	み	野草園
152	ノブキ	キク				○み	み	
153	ノボロギク	キク	☆○	○	○み	○み	○み	外来
154	ノミノフスマ	ナデシコ						
155	ノリウツギ	ユキノシタ		つ	○	み	み	木
156	バイケイソウ	ユリ		○	○み	み	み	
157	ハコベ	ナデシコ	○	○	○	○		
158	ハシドイ	モクセイ		つ	○	み	み	木
159	ハッカ	シソ				○	み	
160	バッコヤナギ	ヤナギ	み	み				木
161	ハナイカリ	リンドウ						
162	ハナタデ	タデ			○	○	○み	
163	ハマエンドウ	マメ		○			み	
164	ハマナス	バラ		○	○み	○み	○み	木
165	ハマハタザオ	アブラナ		○	み			
166	ハルザキヤマガラシ	アブラナ	☆○	○み				外来
167	ハンゴンソウ	キク			つ	○	○み	
168	ヒオウギアヤメ	アヤメ		○	み	み		
169	ヒトフサニワゼキショウ	アヤメ		○				外来
170	ヒナマツヨイグサ	アカバナ			○	○	○	外来
171	ヒメイズイ	ユリ	つ	み	み			
172	ヒメジョオン	キク		つ	○	○	○	外来
173	ヒメスイバ	タデ		○	○	○		外来
174	ヒメムカシヨモギ	キク				○	○み	外来
175	ヒヨドリバナ	キク			つ	○	○み	
176	ヒロハクサフジ	マメ			○			
177	ヒロハツリバナ	ニシキギ	つ○	み	み	み	み	木
178	ヒロハヒルガオ	ヒルガオ			○	○	○	つる性
179	フタバハギ	マメ		つ○	○	○	○み	
180	フッキソウ	ツゲ	○	み	み・つ	み・つ	み・つ	
181	フデリンドウ	リンドウ	○					
182	フランスギク	キク			○	○	○	外来
183	ヘラオオバコ	オオバコ		つ	○	○		外来
184	ヘラバヒメジョオン	キク				○	○	外来
185	ホザキシモツケ	バラ			○	○み	み	木
186	ホソバナキリンソウ	ペンケイソウ			○	み		
187	マイヅルソウ	ユリ	つ○	○み	み	み	み	
188	マユミ	ニシキギ	つ	つ	○	み	み	木
189	マルバトウキ	セリ			つ○み	み	み	
190	ミズナラ	ブナ				み	み	木

No.	植物名	科名	5月	6月	7月	8月	9月	備考
191	ミズバショウ	サトイモ	○み					移入？
192	ミゾソバ	タデ				○	○み	
193	ミツバ	セリ			○	○み	み	
194	ミツバツチグリ	バラ		☆○				
195	ミツバフウロ	フウロソウ			○	○	○み	
196	ミツモトソウ	バラ			○	○	み	
197	ミミコウモリ	キク			っ	○	○み	
198	ミミナグサ	ナデシコ	○	○	○			
199	ミヤマアキノキリンソウ	キク				っ	○	
200	ミヤマザクラ	バラ	っ	み	み	み		木
201	ミヤマニガウリ	ウリ			○み	○み	○み	つる性
202	ミヤママタタビ	マタタビ		○	み	み		つる性の木
203	ミヤマヤブタバコ	キク						
204	ムカゴイラクサ	イラクサ				○	み	
205	ムシトリナデシコ	ナデシコ			○	○	○	外来
206	ムラサキケマン	ケシ	○	○				
207	ムラサキツメクサ	マメ			○	○	○	外来
208	メマツヨイグサ	アカバナ			○	○	○み	外来
209	ヤナギタンポポ	キク				っ	○み	
210	ヤブジラミ	セリ			っ	○み	み	
211	ヤブマメ	マメ				○	み	
212	ヤマハタザオ	アブラナ			み			
213	ヤマハハコ	キク				○	○	
214	ヤマブキシヨウマ	バラ	っ	○	○み	み	み	
215	ヤマブドウ	ブドウ	☆っ	っ	○み	み	み	つる性の木
216	ユウゼンギク	キク					○	外来
217	ヨブスマソウ	キク		っ	っ	○	み	
218	レンプクソウ	レンプクソウ	○み					
219	ワサビ	アブラナ	○					

3 植物部門

B 水生生物 (北方環境研究所 神田 房行)

春採湖における水生植物の動態—2015 年度—

春採湖の水性植物について、筆者らは 2003 年から再調査を始め、2015 年まで 13 年間毎年調査を行ってきた。この間、水草の種数が減少し、湖での分布面積が毎年減少するなど余り良いとは言えない状態が続いていた。しかしながら 2008 年からマツモなどの水性植物の分布面積が回復してきた。

この報告ではこれまでの調査結果に 2015 年の調査結果を加え、総合的に考察した。

春採湖での 2015 年度の調査は 2015 年 8 月 9 日におこなった。調査方法は春採湖の湖畔に沿ってゴムボート上から棒鉤で水生植物を採取し、水草を確認した。

今回採集された水生植物の分布を示した。今回採集された水生植物は以下の 4 種であった。この内マツモ、エゾノミズタデ、ヒシは沈水・浮葉の水草であるが、クラドフォラは藻類（緑藻）である。

マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i> L.
エゾノミズタデ	<i>Persicaria amphibian</i> (L.) S.F.Gray
ヒシ	<i>Trapa japonica</i> Florov
クラドフォラ	<i>Cladophora crispata</i> (Roth) Kuetzing

1986 年の調査と 2003 年～2015 年の 13 年間の調査結果を比較すると、2003 年から 2015 年ではイトクズモとヒロハノエビモの 2 種が全く採集されていない（表 1）。従ってこの 2 種は春採湖から絶滅したのはほぼ間違いないと思われる。また、リュウノヒゲモが最近の 5 年間、2011 年～2015 年には採集されていない。リュウノヒゲモは 1986 年当時量的にかなり多かった（図 2）。しかしながら 2005 年から 2007 年までの間はかなり少なくなっていた。その後、2008 年～2010 年の調査ではかなり回復しているようにみられた（図 2）。しかしこの 5 年間の状況を見ると春採湖からの絶滅が危惧される。

マツモは 1986 年に比べ、2003 年から次第に減少し、2006 年、2007 年に採集されなくなった（表 1）。しかし 2008 年から徐々に回復してきており、2012 年には 2003 年を超えるくらいまで回復し、2013 年も 2012 年以上に分布面積が増加した。2014 年は 2013 年より僅かに分布面積が減少したように見える（図 2）。しかし 2015 年では 2013 年よりも回復している。マツモの分布は 1986 年当時と大きく異なり、湖の北東部には見られず、南西部の旧柏木小周辺を中心に大きな群落を形成している（図 1）。

ヒシは 2006 年と 2008 年には採集されなかったが、2010 年にはかなり回復してきた。

しかし、2011年から分布面積が急激に減少し、2013年には柏木小学校の近くで僅かにみられたにすぎない。しかし、2014年から回復し、2015年の調査では2014年に比べ増加している（表1、図2）。

エゾノミズタデは1986年当時と同じ所にいつも分布をしている。2006年から他の地域でも見られるようになり、2011年の調査では分布面積が以前より拡大している傾向が見られた。しかし、2012年～2013年にはまた減少してきていた。2014年では面積が増加してきている。2015年はさらに面積が増加し、生育地点も多くなっている（図1、図2）。

クラドフォラは1986年当時に大量に見られたが、その後の刈り取りもあり、最近ではほとんど見られなくなっていたが、今回2015年の調査時には南部の柏木小学校の近くで見られるようになった（図1）。クラドフォラは水草ではないが、水生植物であるので、記録しておいた。

水草全体としては2007年付近にかなり減少したが、2010年まで回復してきた。2011年からは増加傾向にある。種毎にみると2011年からリュウノヒゲモ、ヒシの減少が著しい。しかし、ヒブナの産卵水草であるマツモについては増加してきており、2015年も2014年よりも増加しているのはヒブナにとっていい傾向であると思われる（図1、図2）。

表1 春採湖の沈水・浮葉性の水草の種類とその出現の年変動。

植物種	1986	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
リュウノヒゲモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
エゾノミズタデ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マツモ	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒシ	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
イトクズモ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ヒロハノエビモ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
植物種数	6種	4種	4種	4種	2種	3種	3種	4種	4種	3種	3種	3種	3種	3種

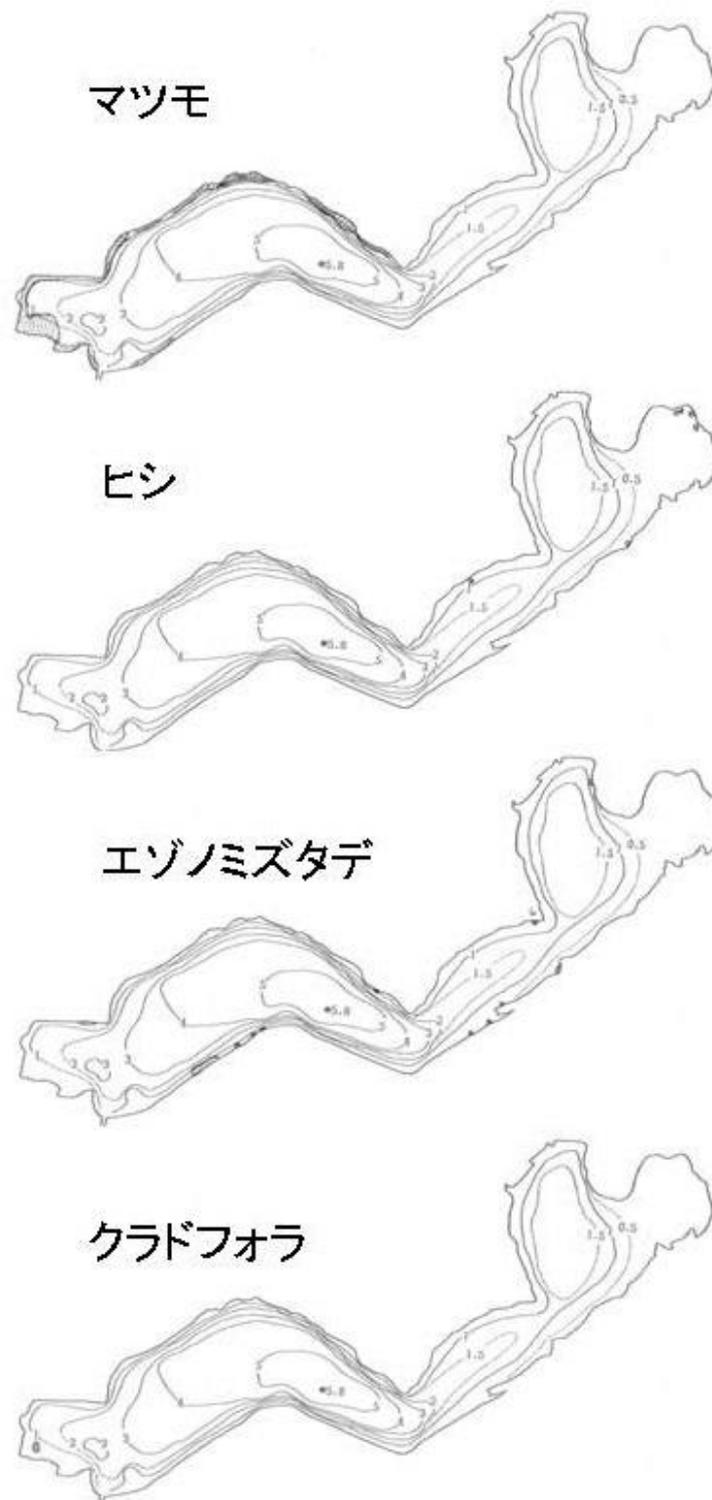


図1 2015年度，春採湖における4種の水生植物の分布。

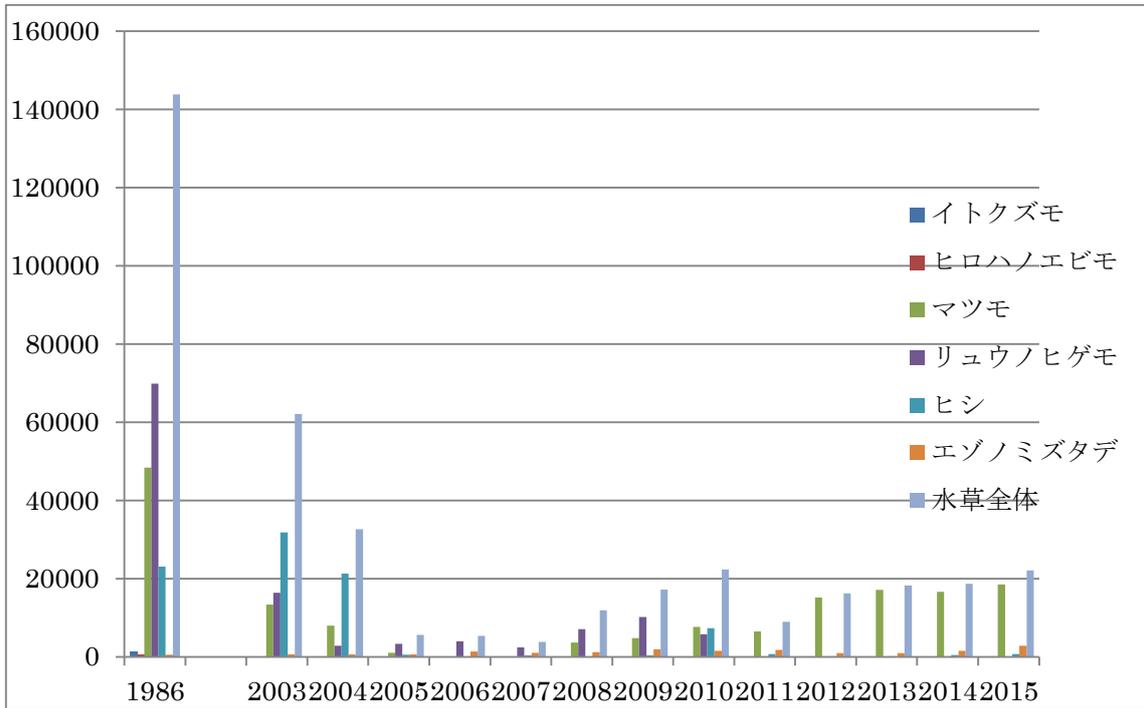


図2 春採湖における水草の分布面積の年変動。(単位は平方メートル)

春採湖 ダイジェスト

春採湖に関する事で、情報がありましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

◆平成27年度に春採湖で行われた行事や出来事を紹介します◆

月	主な行事 [] 内は実施主体等	特記事項
4月	18日:春採湖ネイチャーセンター開館 19日:春採湖畔探鳥会 [市立博物館](11月まで毎月1回開催) 25日:春採公園クリーン作戦 [マチをきれいにする推進協議会]	1日:ヒバリ初鳴※ 4日:春採湖全面解氷
5月	16日:春採湖畔草花ウォッチング [市立博物館](9月まで毎月1回開催)	6日:サクラ開会日※
6月	2日:ヒブナ生息調査[市立博物館](25日まで実施) 10日:コアかがやき「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](16日まで実施) 13日:しらべてみよう春採湖の昆虫 [市立博物館](9月まで毎月1回開催) 15日:春採湖ウチダザリガニ捕獲事業 [市環境保全課](19日まで実施) 22日:塩分躍層調査 [市環境保全課](3月まで毎月1回調査)	
7月		31日:ヤマハギ開花※
8月	8日:春採湖水まつり [春採湖の会] 22日:自然観察会・春採湖ウチダザリガニ捕獲事業市民参加行事 「春採湖のウチダザリガニ 2015」 [市環境保全課]	
9月	28日:春採湖ウチダザリガニ捕獲事業 [市環境保全課](10月7日まで実施) ※荒天により10月2日、3日の捕獲は延期。10月下旬に補完調査を実施。	
10月	26日:春採湖ウチダザリガニ捕獲事業補完調査 [市環境保全課](27日まで実施) 31日:春採湖ネイチャーセンター閉館	9日:カエデ紅葉※
11月		
12月	2日:釧路市役所防災庁舎1階「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課] (8日まで実施) 9日:コア鳥取「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](15日まで実施) 16日:コア大空「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](22日まで実施)	26日:春採湖全面結氷
1月		
2月	20日:春採湖畔冬のいきもの観察会 [市立博物館]	
3月		

※ 札幌管区气象台ホームページより



平成27年8月22日「春採湖のウチダザリガニ2015」

発行／春採湖調査会

＜お問い合わせ先＞

春採湖調査会(庶務)
釧路市市民環境部
環境保全課自然保護担当
TEL:0154-31-4594
FAX:0154-23-4651

E-mail: ka-shizenhogo@city.kushiro.lg.jp